



## インストール後のタスク

- (1 GbE のみ) インストール後のスクリプトの実行 (1 ページ)
- (10/25GE のみ) インストール後のスクリプトの実行 (2 ページ)
- vMotion の自動構成 (3 ページ)
- 手動による vMotion の構成 (4 ページ)
- 手動によるトラフィック シェーピングの構成 (4 ページ)
- (10/25GE) 追加 VIC ポートの使用 (オプション) (5 ページ)

### (1 GbE のみ) インストール後のスクリプトの実行

**ステップ 1** Web ブラウザで、`http://<インストーラ VM の IP アドレス>/mssh` に移動し、ユーザ名 **admin** と、自分のパスワードを使用してログインし、`hx_post_install` を実行します。

**ステップ 2** **Enter** キーを押して、Web ベースの SSH ウィンドウでインストール後のタスクを開始します。

インストール後のスクリプトの実行時に、要件に応じ、次のオプションのいずれかを選択します。

- **1:** 新しく作成されたクラスタまたは既存のクラスタでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトはクラスタ内のすべてのノードでインストール後の操作を実行します。
- **2:** 拡張ワークフローを実行した後、拡張ノードまたは新しく追加されたノードでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトは拡張されたノードのリストを取得し、拡張されたノードでインストール後の操作を実行します。
- **3:** クラスタ内に固有の SSL 証明書を設定します。このオプションを選択すると、現在の証明書が新しく作成された SSL 証明書に置換されます。このオプションは、クラスタの拡張には必要ありません。

**ステップ 3** 画面の指示に従って、インストールを完了します。  
`hx_post_install` スクリプトは以下の事柄を行います。

- vCenter ホストのライセンス付与。
- ベストプラクティスごとのクラスタの HA/DRS の有効化。

- vCenter の SSH/シェル警告の抑制。
- ベスト プラクティスに沿った vMotion の設定。
- ゲスト VLAN/ポートグループの追加。
- HyperFlex Edge 構成のチェックの実行。

Post\_install ワークフローが正常に完了すると、選択したオプションに基づいて実行された設定の概要が [Cluster summary (クラスタ概要)] の下に表示されます。

インストール後スクリプトの例は次のとおりです。

---

## (10/25GE のみ) インストール後のスクリプトの実行

---

**ステップ 1** Web ブラウザで、`http://<インストーラ VM の IP アドレス>/mssh` に移動し、ユーザ名 **admin** と、自分のパスワードを使用してログインし、`hx_post_install` を実行します。

**ステップ 2** **Enter** キーを押して、Web ベースの SSH ウィンドウでインストール後のタスクを開始します。

インストール後のスクリプトの実行時に、要件に応じ、次のオプションのいずれかを選択します。

- **1:** 新しく作成されたクラスタまたは既存のクラスタでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトはクラスタ内のすべてのノードでインストール後の操作を実行します。
- **2:** 拡張ワークフローを実行した後、拡張ノードまたは新しく追加されたノードでインストール後スクリプトを実行します。このオプションを選択すると、スクリプトは拡張されたノードのリストを取得し、拡張されたノードでインストール後の操作を実行します。
- **3:** クラスタ内に固有の SSL 証明書を設定します。このオプションを選択すると、現在の証明書が新しく作成された SSL 証明書に置換されます。このオプションは、クラスタの拡張には必要ありません。

**ステップ 3** 画面の指示に従って、インストールを完了します。

`hx_post_install` スクリプトは以下の事柄を行います。

- vCenter ホストのライセンス付与。
- ベスト プラクティスごとのクラスタの HA/DRS の有効化。
- vCenter での SSH/シェル警告の削除。
- ベスト プラクティスに沿った vMotion の設定。
- 新しい VM ポートグループの追加。
- HyperFlex Edge のヘルス チェック。

Post\_install ワークフローが正常に完了すると、選択したオプションに基づいて実行された設定の概要が [Cluster summary (クラスタ概要)] の下に表示されます。

インストール後スクリプトの例は次のとおりです。

## vMotion の自動構成

hx\_post\_install スクリプトにより、ネットワーク トポロジに基づいて自動的に vMotion が構成されます。

### 1GE シングル スイッチの考慮事項

- 自動構成では、トランク ポートのみがサポートされ、専用 vMotion VLAN を使用した構成のみが可能です。
- アクセスポートを使用する場合や、共有 vMotion VLAN を使用して構成する場合は、既存の管理 VMkernel ポート (vmk0) 上に vMotion を手動で構成する必要があります。
- vMotion は、1GE 管理および VM ネットワーク アップリンクで共有されます。
- vMotion によってリンクが完全に飽和状態にならないよう、デフォルトの 500Mbps トラフィック シェーパを使用して新しい VMKernel ポート (vmk2) が作成されます。このデフォルト値は、hx\_post\_install の実行後に変更することができます。[手動によるトラフィック シェーピングの構成 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

### 1GE デュアル スイッチの考慮事項

- vMotion は専用の 1GE アップリンクで設定されます。
- 新しい VMKernel ポート (vmk2) が作成されます。フェールオーバーの順序は、通常のネットワーク条件下でストレージ データと vMotion が分離されるように自動構成されます。
- この設定では、トラフィック シェーパは不要です。

### 10/25GE スイッチの考慮事項

- vMotion は、専用の vMotion vSwitch 上で専用のアクティブ/スタンバイ vNIC と共に設定されています。
- 新しい VMKernel ポート (vmk2) が作成されます。フェールオーバーの順序は、通常のネットワーク条件下でストレージ データと vMotion が分離されるように自動構成されます。

- この設定ではトラフィック シェーパは必要ありませんが、帯域幅は管理、vMotion、およびゲスト VM ポート グループで共有されます。ネットワーク要件に応じて、オプションのトラフィック シェーパを適用することができます。

## 手動による vMotion の構成

vMotion は環境のニーズに応じてさまざまな方法で構成できます。このタスクで説明するのは構成の一例です。この手順を基に、必要に応じてバリエーションを適用できます。

この設定では、ポート 1 でトランキングされる固有の VLAN を vMotion に使用します。

- 
- ステップ 1 vSphere を起動し、管理者として vCenter Server にログインします。
  - ステップ 2 [vCenter Inventory リスト (vCenter Inventory Lists)] で HyperFlex ホストをクリックし、[管理 (Manage)] > [ネットワークング (Networking)] > [仮想スイッチ (Virtual Switches)] の順に移動します。
  - ステップ 3 [ホスト ネットワークの追加 (Add Host Networking)] をクリックします。
  - ステップ 4 [ネットワークの追加ウィザード: 接続タイプ (Add Network Wizard: Connection Type)] ページで、[VMkernel] をクリックしてから、[次へ (Next)] をクリックします。
  - ステップ 5 [vswitch-hx-inband-mgmt を使用 (Use vswitch-hx-inband-mgmt)] をクリックしてから、[次へ (Next)] をクリックします。
  - ステップ 6 [ネットワーク ラベル (Network Label)] に識別しやすいラベル (vMotion などを入力し、正しい [VLAN ID] を入力してから、[vMotion にこのポート グループを使用 (Use this portgroup for vMotion)] をオンにし、[次へ (Next)] をクリックします。
  - ステップ 7 [次の IP 設定を使用 (Use the following IP settings)] をクリックし、スタティックな IPv4 アドレスと [サブ ネット マスク (Subnet Mask)] の値を入力してから、[次へ (Next)] をクリックします。
  - ステップ 8 設定内容を確認し、[Finish (終了)] をクリックします。
  - ステップ 9 HyperFlex ストレージクラスタに含まれるすべての HyperFlex ホストとコンピューティング専用ホストについて、上記の手順を繰り返します。
- 

## 手動によるトラフィック シェーピングの構成

1GE シングル スイッチ展開で、共有アップリンクでのネットワーク輻輳を防ぐためのベストプラクティスは、vMotion インターフェイスでトラフィック シェーピングを有効にすることです。トラフィック シェーパを設定しないと、vMotion トラフィックのため、同じ物理 1 GE ポートを共有する管理トラフィックと VM ゲスト トラフィックが使える帯域幅が非常に少なくなります。vMotion 標準スイッチでは、出力トラフィックのシェーピングのみを設定できます。

- 
- ステップ 1 vSphere を起動し、管理者として vCenter Server にログインします。

ステップ2 [vCenter Inventory リスト (vCenter Inventory Lists)] で HyperFlex ホストをクリックし、[管理 (Manage)] > [ネットワークング (Networking)] > [仮想スイッチ (Virtual Switches)] の順に移動します。

ステップ3 vMotion ポート グループが含まれている vSwitch を選択します。

ステップ4 vMotion ポート グループ名をクリックし、[設定の編集 (Edit Settings)] (鉛筆アイコン) をクリックします。

ステップ5 左側のメニューで、[トラフィック シェーピング (Traffic shaping)] を選択します。

ステップ6 [オーバーライド (Override)] チェックボックスをオンにしてトラフィック シェーピングを有効にします。

ステップ7 平均帯域幅とピーク帯域幅を、環境のニーズに適合する値に設定します。たとえば、1 GE アップリンクで使用可能な総帯域幅の 50% を表す 500,000 kbit/sec を両方の帯域幅に使用できます。

ステップ8 [OK] を選択して設定を保存します。

(注) 平均帯域幅を適切な値に設定するよう注意してください。ピーク帯域幅はトラフィックのバーストにのみ適用され、vMotion の動作時には短時間で枯渇します。

## (10 / 25GE) 追加 VIC ポートの使用 (オプション)

(異なる VLAN などの) 異なるスイッチへのアップリンクが必要な場合、またはゲスト VM に追加の専用帯域幅が必要な場合は、HX のインストール後に VIC からポート 3 と 4 を接続できます。ここでは、デフォルトで作成される設定と、追加ポートで追加の vNIC を作成する方法について説明します。

### デフォルトの 10GE VIC 設定 :

インストール時に、HyperFlex は VIC 1457 を次のように設定します。

- ポート チャンネルを無効にします。
- HyperFlex が動作するために必要な 8 つの vNIC を設定します (VIC の最初の 2 つのポートに対応するアップリンク ポート番号は 0 または 1 に設定します)。

| Name                          | CDN          | MAC Address       | MTU  | usNIC | Uplink Port | CoS | VLAN | VLAN Mode | ISCSI Boot | PXE Boot | Channel | Port Profile | Uplink Fa |
|-------------------------------|--------------|-------------------|------|-------|-------------|-----|------|-----------|------------|----------|---------|--------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> eth0 | hv-mgmt-a    | 00:25:B5:50:A1:01 | 9000 | 0     | 0           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth1 | hv-mgmt-b    | 00:25:B5:50:B2:01 | 9000 | 0     | 1           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth2 | storage-d... | 00:25:B5:50:A3:01 | 9000 | 0     | 0           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth3 | storage-d... | 00:25:B5:50:B4:01 | 9000 | 0     | 1           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth4 | vm-netwo...  | 00:25:B5:50:A5:01 | 9000 | 0     | 0           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth5 | vm-netwo...  | 00:25:B5:50:B6:01 | 9000 | 0     | 1           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth6 | hv-vmoio...  | 00:25:B5:50:A7:01 | 9000 | 0     | 0           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |
| <input type="checkbox"/> eth7 | hv-vmoio...  | 00:25:B5:50:B8:01 | 9000 | 0     | 1           | 0   | NONE | TRUNK     | disabled   | disabled | N/A     | N/A          | N/A       |

## 追加の VIC ポートの作成

追加の vNIC を作成するためのガイドライン：

- 必要な場合は、残りのポートを使用して追加の vNIC を作成できます。これらは VMware では未使用の vmnic として表示されます。その後、新しい vSwitch を作成し、これらのネットワーク ポートを使用できます（ゲスト VM 用）。
- インストーラによって自動的に作成された既存の vNIC、vSwitch、またはポートグループは変更しないでください。必要な場合は、新しい vNIC、vSwitch、およびポートグループを作成します。
- 追加のアップリンクでは、既存の HX vSwitch を再利用しないでください。これらのアップリンクを使用して新しい vSwitch を作成します。
- 新しい vNIC を作成する場合は、HX サービスに使用されるものと同じ 2 つの物理ポート（管理、ストレージトラフィック、vmotion、vm-network など）に配置しないでください。未使用の物理ポートで作成してください。

**ステップ 1** HX クラスタが正常であることを確認します。

**ステップ 2** ESXi ホストを HX メンテナンス モードにします。

**ステップ 3** 新しい vNIC を作成し、VIC の最後の 2 つのポートに対応するアップリンクポート #2 または 3 に配置します。

The screenshot shows the 'Add vNIC' configuration window. The 'General' tab is active. The fields are as follows:

- Name: [ ]
- CDN: [ ]
- MTU: 1500 (range: 1500 - 9000)
- Uplink Port: 0
- MAC Address: 0, 1, 2, 3
- Class of Service: 2 (range: 0 - 6)
- Trust Host CoS:
- PCI Order: 12 (range: 0 - 12)
- Default VLAN:  None,  (1 - 4094)

**ステップ 4** ESXi を再起動し、新しい vSwitch に追加できた追加の vmnic が表示されることを確認します。

**ステップ 5** HX メンテナンス モードを終了します。

**ステップ 6** 残りのホストに対してこのプロセスを繰り返します。

---





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。